第６回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和７年１月 27 日（月）
17 時～18 時 30 分
会場：篠ノ井総合交流センター

次 第

１ 開　会

２ 県教育委員会挨拶

３ 会議事項
（１）第５回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
（２）新校の生徒像・学校像について（グループワーク）
（３）その他

４ その他
次回の予定
【期日】　令和７年４月または５月（予定）
【場所】　千曲市役所（予定）

５ 閉　会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

（目的）

第１　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」（以下、「懇話会」という。）を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第 138 条の４第３項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

（会議事項）

第２　懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

（１）学校像、教育方針等に関すること

（２）校地・施設・設備等に関すること

（３）管理運営等に関すること

（４）教育内容等に関すること

（５）その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

（構成員）

第３　懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者（校長、教職員等）、地域の代表（自治体関係者、産業界の代表等）、同窓会、ＰＴＡ、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

２　会議に座長を置く。

（開催期間）

第４　会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和２年 10 月 26 日から施行する。

長野千曲総合技術新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿

	区分	氏名（○：座長）	所属等	役職等
1	自治体	西澤　雅樹	長野市	副市長
2		丸山　陽一	長野市	教育長
3		小川　修一	千曲市	市長
4		小松　信美	千曲市	教育長
5		塚田　常昭	坂城町	教育長
6	産業界	市川　伸一	ＪＡグリーン長野総合企画部企画広報課	課長
7		福田　享士	株式会社システックス	常務取締役
8		矢島　隆生	フレックスジャパン株式会社	代表取締役社長
9		滝沢　秀治	滝沢食品株式会社	代表取締役社長
10	学識経験者	森下　孟	信州大学学術研究院教育系	准教授
11		○藤本　光世	元県立高等学校長	
12	地域	坪井　俊文	長野地域振興局	局長
13		海野　忠一	長野市（篠ノ井地区）	
14		香山　篤美	長野市（松代地区）	
15		赤地　憲一	千曲市	
16	同窓会	越　　正至	更級農業高校同窓会	同窓会長
17		細川　隆男	松代高校同窓会	同窓会長
18		赤塩　曜子	屋代南高校同窓会	同窓会長
19	ＰＴＡ	小田切　勇	更級農業高校ＰＴＡ	ＰＴＡ会長
20		宮澤　洋介	松代高校ＰＴＡ	ＰＴＡ会長
21		山﨑　みさ子	屋代南高校ＰＴＡ	ＰＴＡ会長
22		吉澤　多恵子	長野市ＰＴＡ連合会	代表
23		唐木　文子	更埴ＰＴＡ連合会	代表
24	小中学校等関係者	宮尾　昭広	長野上水内校長会 広徳中学校	校長
25		中野　禎仁	更埴校長会 戸倉上山田中学校	校長
26		倉島　さつき	稲荷山養護学校	校長
27	再編対象校	櫻井　大河	更級農業高校（生徒）	農業クラブ会長
28		武藤　穣	更級農業高校	校長
29		徳武　晃	更級農業高校	教諭
30		岡澤　愛実	松代高校（生徒）	生徒会長
31		向井　健太郎	松代高校	校長
32		宮林　正樹	松代高校	教諭
33		渋沢　葉奈	屋代南高校（生徒）	ライフデザイン科代表
34		竹内　宏枝	屋代南高校	校長
35		肥田　尚音	屋代南高校	教諭

【事務局】

学校名	氏名		
更級農業高校	丸山　暢之（教頭）	徳武　晃	石澤　圭祐
松代高校	阿部　栄智（教頭）	宮林　正樹	坂本　成久
屋代南高校	櫻田　智也（教頭）	肥田　尚音	土屋　友紀子

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	井出　敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	山﨑　巌	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	宮嶋　直美	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	三木　舞子	学びの改革支援課　高校教育指導係	主任指導主事

第5回　長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日　時	令和６年11月18日（月）17時00分～18時30分		
場　所	篠ノ井総合交流センター　多目的ホール		
出　席 **（敬称略）**	丸山陽一、小川修一、小松信美、塚田常昭、市川伸一、福田享士、滝沢秀治、森下孟、藤本光世、海野忠一、赤地憲一、越正至、細川隆男、赤塩曜子、小田切勇、山﨑みさ子、唐木文子、中野禎仁、倉島さつき、櫻井大河、武藤穣、徳武晃、今川千桜、向井健太郎、宮林正樹、伊藤七菜、渋沢葉奈、竹内宏枝、肥田尚音　（以上29名）		
欠　席 **（敬称略）**	西澤雅樹、矢島隆生、坪井俊文、香山篤美、宮澤洋介、吉澤多恵子、宮尾昭広、武田拓斗、岡澤愛実　（以上９名）	**傍聴者**	18名（オンライン３名含む） 報道関係５社
事務局	更級農業高校	丸山教頭、徳武教諭、石澤教諭	
	松代高校	阿部教頭、宮林教諭、坂本教諭	
	屋代南高校	櫻田教頭、肥田教諭、土屋教諭	
当日資料	第５回懇話会資料、ワークシート、各校生徒による学校・学びの紹介（第２回懇話会資料）		

会議事項

（１）第４回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ
（２）学校（学科）間連携の紹介
（３）新校の生徒像・学校像について（グループワーク）

主な内容（意見・質問等）（⇒回答）

（１）第４回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（⇒意見なし　承認）

（２）学校（学科）間連携の紹介（概要）
○更級農業高校、松代高校、屋代南高校の連携について
・SBCテレビの番組「夢テレビ」において、屋代南高校の生徒が更級農業高校と飯田東中学校の生徒が育てたリンゴを使ったスイーツの開発を行った。
・「夢テレビ」以降も交流を継続し、作品学習発表会（12月）でも開発したスイーツの販売を予定している。
・更級農業高校と松代高校が連携し、「川中島フェスティバル（10/20 川中島支所）」と「信州ねんりんピック（11/16ホクト文化ホール）」で販売実習を行った。
○連携による学び・教育効果
・廃棄するリンゴを活用することでの食の大切さや新たな発見に向けた学び。
・栽培から加工、販売までの一連の学習をとおした、各自の専門科での学びの深化や他学科での新たな学び。
・社会性・コミュニケーション能力・問題解決能力・経済感覚・自己肯定感の向上、キャリア教育。
○今後の展望
・更に３校での連携を深め、様々な農作物を活用した取組を展開していく。

（３）新校の生徒像・学校像について（グループワーク）
ア　進め方等についての質疑応答
・再編計画の対象校３校がどのように統合されるのか、あらためて確認したい。
⇒再編・整備計画【三次】では、更級農業高校、松代高校商業科、屋代南高校を長野千曲総合技術新校に再編統合、松代高校を普通科のみとする計画を提示している。本懇話会では、長野千曲総合技術新校について意見交換を行っていただきたい。（県事務局）
・再編統合に関わって、屋代南高校を存続させるとの署名活動が行われると聞いている。そのような状況で、３校が統合した新校の生徒像や学校像についての意見交換を行うことができるのか。
⇒長野千曲総合技術新校をつくることには反対していない。署名の内容は、屋代南高校の存続ではなく、再編整備に関わって千曲市内に県立高校２校の配置を要望するものである。また、新校の校地や学科等については、懇話会の中で意見交換していくものと認識している。（構成員）

イ　各グループからの発表内容
【Ａグループ】
○こんな生徒を育てたい
・地域社会貢献を行うとともに、社会性、地域性を考えながら、伝統文化など地域を担う生徒を育てる。
○目指す学校像
・農業科、商業科、家庭科の他に工業や福祉の学びも取り入れる。
・大学、企業との連携や、英語、情報などの大学に繋がる教科をしっかり学べる。
・海外へチャレンジするためのフィールドが準備されている。
・デザイン関連の学習・ものづり、ビジネス、ITものづくりができる。特に、スマート農業などの最先端の技術に触れさせる。
・アントレプレナーシップ教育を進め、その精神や考え方を学べる。

・基礎教育は義務教育の中でやってもらい、高校では更にその上を行くような取組を行っていく。

【Ｂグループ】
○こんな生徒を育てたい
・地域との連携を深め、専門性の高い生徒を育てる。
・将来、地元に戻ってきて活躍できる生徒を育てる。
○目指す学校
・協調性を持たせ、自己肯定感を養う。
・様々な可能性を広げられ、生徒が学びたいものが提供できる。
○ワクワクする学校にするには
・クラブ活動も思い切ってできるような学校を目指す。

【Ｃグループ】
○こんな生徒を育てたい
・複雑で正解のない時代を生き抜く生徒に、課題解決力と協働的な力、コミュニケーション能力を身につけさせる。
○目指す学校像
・農業で生産したものをライフデザイン科で商品開発し、商業科のノウハウを生かしながら販売まで進めるといった一連の学びができることが新校の強み。
・複合的な学び合いをすることによって、生徒がいろんなものに興味・関心をもち学びが深まる。
・一方的な授業スタイルではなく、グループ学習や柔軟な授業スタイルを導入する。

【Ｄグループ】
○こんな生徒を育てたい、目指す学校像
・自らの適正や興味・関心を見つけてもらえる学校。
・自らの夢の実現のために自由に選択していける学校。
・生徒の自由な選択を応援し続けられる学校。
→キャッチフレーズ：『学んだ後にはこんな君がいる』

【Ｅグループ】
○こんな生徒を育てたい
・デジタル技術を習得し、それを活用できるような人材を育てる。
・国際的な視野を持ち、活躍できる人材を育てる。
○目指す学校像
・持続可能な社会を意識した教育を重視。
・IT がハブとなって農業科、家庭科、商業科が活用できるような取組を行う。
・稲荷山養護学校分教室も継続させ、多様な生徒にも対応できる学校にしていく。
○ワクワクする学校にするには
・多くの科目が選択でき、学科間で相互乗り入れができる。
・多様な生徒が自分のペースで学ぶための IT 技術を使ったバーチャル的なシステムを取り入れる。

【Ｆグループ】
○こんな生徒を育てたい
・専門的な学習をとおして、就職先で使える技術を身につけた生徒を育てる。
○目指す学校像
・地域との関わりを大切にして、専門的な学習の中で地域貢献を行っていく。
・日本の現状等を教え、その先に生かしていける、毎朝行きたくなるような学校。
・安全な教育環境が整える。
○ワクワクする学校にするには
・学科を跨いだ学習の中で、夢を膨らませられる。
・入学時に夢がない人も夢を見つけたり、入ってから見つけられるような学校。
・専門性に見合う設備を用意する。

※ 各校生徒代表の感想（今回が最後の参加となる生徒代表から）
・３校が統合されることで、より多くのことを学べるようになり、将来に役立つと感じた。この懇話会に参加し良い経験ができた。
・懇話会に参加できたことは、他校の良さや学習内容を知ることができ、良い経験になった。３校を組み合わせることで素晴らしい学校になることを期待している。

その他

【次回】
・日時：令和７年１月（予定）17 時～18 時 30 分
・会場：千曲市（予定）
・内容：新校での生徒像・学校像（グループワーク）

第５回長野千曲総合技術新校懇話会グループワークまとめ
（意見・キーワード・キャッチコピー等　　→理由）

１こんな生徒を育てたい（こんな力がついたらいいな）

ア　主体的

①目標、目的意識を持って、自主的に取り組む	
②選択力（多角的・多面的に自分の基準を作る力）	→自分で問題解決していく上で、情報収集やものごとの考え方が大切
③自ら選択	
④一人ひとりが主役になって羽ばたこう	→個別、個人の長所、得意なことを伸ばしながら未来に向かっていけたら良い
⑤もっと自分らしく輝こう	→自己肯定感を大切にし、協働的な学びをしてほしい
⑥学んだ後には、こんな君がいる	→高校の職員に考えを深めてもらいたい
⑦新校の学びの中で自らの適性や興味・関心を見つけられる	
⑧学校教育法第 30 条２項を根拠にした生徒	
学校教育法第 30 条２項：前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない	
⑨中学生の時に自分の将来がはっきりしていない生徒も、総合技術新校での体験や資格取得を知り、興味を持った職に就くためにどうすれば良いか、どんな資格を取れば良いか逆算できる生徒を育てたい	

イ　専門性

①農業、商業、ライフデザイン及び工業で、一つの分野に特化して専門性を持つ生徒	→産業界、この地域の企業として、普通科で学んだ生徒も大切であるが、これからの企業経営には、一つの分野に特化して専門性を持った生徒が必要 そのような生徒が高校卒業後、この地域の企業に就職したり、また大学に進学して、その後この地域の企業に就職して、地域を担う人材になって欲しい
②就職先で使える技術を身につけた生徒	→自分がやりたい職業につく前に高校で学ぶことで就職したときに役に立つと思ったから
③農業・商業・家庭科の専門的な知識や技術を身につけた生徒	→総合技術新校であるので、専門的な知識や技能を身につけて、その力を生かして各業界で活躍する人材を育てたい
④専門学習をとおして、多面的なチカラを身につけた生徒	→先の見えない時代を生きていかなければならない生徒達に、必要な能力は何かを考えた

ウ　探究

①これからの令和の時代を生き抜くための協働的・探究的なチカラをもつ生徒	→未知の時代を生き抜くためのコミュニケーション能力を身に付けるために、協働的な学びが大切 そのために、ラーニング・コモンズなど、生徒が仲間と話し合いながら複合的に学びを深めることのできる学習の場を取り入れる必要
②「体験」という引き出しを増やす	→農だけ、商だけ、家だけの狭い視野でなく、広く柔軟に思考できるように
③将来、新たな価値観を生み出す人材育成	
④課題解決力	→正解のない世の中を生き、働く力になるため
⑤私が創る地域の未来・日本の未来	→企業では、こんな意識のある人が来てくれたらうれしい

エ　多様性

①適応能力が備わった、責任感が強く、人間性豊かな生徒	
②発表し合い、技術や肯定感が高い	→他学科との交流や他学科でのことも学ぶことができる
③発想が豊かな生徒（多様性に対応できる、多様な価値観の中にいる）	→このような話を当事者である生徒に育てたい

オ　地域

①持続可能な地域社会を創る一員となる	→自らの良さを発揮し、環境に配慮した生活が送ることができるよう基礎をつくる
②社会で求められるコミュニケーション能力を持つ生徒	
③持続可能な社会（環境）を思考できる	→環境問題の重要性ＵＰ
④地域と関わる専門学習をとおして、自らの生き方を見つける生徒	→地域と関わる中で、また専門学習をとおして、自分にとって大切なものを見出してほしい

⑤地域の資源や産業に誇りを持ち、共に発展できる力	→この地域は農業や工業、観光業それぞれが絶妙なバランスで集積し、立地や質の関係からも今後の発展が見込まれることから、この地域の良さを理解し、支え、生かして行こうとする力が大事
⑥社会の中で、私もみんなも幸せになっていこうとする生徒	→何歳になっても志を高く持って自分から学び続けることが必要

２目指す学校像（こんな学校があればいいな）

ア 主体的

①自分達(生徒達)のやりたいことにチャレンジできる	→大人・先生の意見を聞きながら、自分達で考え、実行し、いろいろな経験をしてほしい
②生徒の自由な選択を応援できる学校	→生徒が生きがいを感じられるように
③自分のペースで学べる	
④自分のやりたいことが見つかる学校	

イ 学習環境

①安全な教育環境…通学路等	→「ワクワクする学校つくり」の第一条件は、生徒が安心して通学できて、安全な学校生活が保障されていること
②毎朝行きたくなるような学校	
③明るく、毎日行きたくなるような学校（行事などに力を入れる）	→学校の行事（クラスマッチや文化祭）など、一団になるのが楽しかったから
④授業だけでは味わえない、団結や取組の場を積極的に設ける	
⑤座学より、調理実習や、実験などが多い学び	
⑥校内に、レストラン、カフェ、公園などがある	
⑦ワンキャンパス　他学科と合同実習	→ワンキャンパスだからこそ、他学科生徒との交流が盛り上がり、学びが深まっていく
⑧現在の中学校での職場体験の様な、実際に職場に出向き、実践で学ぶ授業を期間的ではなく、生徒の好きなタイミングで行える	
⑨デジタル技術の取得と活用（可能な限り、最新技術を導入）	日本でのＩＴ技術の遅れ
⑩入学したらゴールをしっかりしたものにしてほしい	
⑪専門科目の 25 単位にこだわらず、基礎的な学びを残してワクワクする教育を高校で取り組む	
⑫授業内容は基本的に生徒が決める	
⑬今までにない学びの学校(連携、将来設計)	

ウ 教科横断・学科間での連携

①専門科目と連携した学びができる	
②農・商・家庭に工業、福祉科を取り入れ、各学科で連携ができ、地域・社会に貢献できる	
③専門性やその学ぶ過程での生徒同士の協調性、各種資格の取得、地域との連携などの経験ができる	→職業高校であることから、普通高校では体験できない、実習や地域との連携した経験等が、社会に出たときに役立つ、想像力豊かな人間性が育つ
④３校の特色を生かした学校(活動の広がり、生徒の選択の幅が広がる　など)	
⑤農業・商業・家庭科の専門的な学びはもちろん、教科を横断した学びが実践できる学校	→農・商・家の学びは多様であるが、連携できる内容もたくさんある 例えば、自分は農業科だけど商業や家庭科の先生にアドバイスをもらいたいとか、商業科や家庭科の生徒にも協力してもらいたいとか、そんなことが気楽にできれば探究活動が深まるのではないか
⑥専門科なので、実際に行事に向けての活動やチームワークが必要なチカラとなる	→作品発表会に向けて取り組んでいるため

エ 専門性

①夢を実現できるために専門知識を身につけられる	
②積極的な資格取得を目指し、就職への強みができる学校	
③生産・加工・販売を学ぶ学校	→それぞれの学科を学んでいける学校、起業へもつながる
④検定をたくさんとれる	
⑤土地を耕し、作物を育て、加工して、発売する一連の流れをとおした学びから、新たな「問い」が生まれる	→学科連携と地域社会とを関連づけさせることで、深い学びを追求できる学校づくりをしていくことが大切
⑥農業について、今の日本における状況を学ぶ	→企業には、農業の苦しさ、世界の状況を知って来てほしい

オ 探究

①高度なもの、先端的なものに触れられる	→企業、大学から来てもらい、より高度なものに触れる(体験させる) 世の中の最先端に触れさせることで探究心が出てくる

②自分を探すことができる学校	
③個別最適な学びと協働的な学びを一体化させ、総合技術高校ならではの学科連携にもとづいた探究的な学びを地域と共に進めていく	
④就職を目指したキャリア教育でなく、もっと上を目指したもの	
⑤探究的学習　学科連携・地域連携	→自己課題に向け、根気良く追及する力をつけたい 単に三学科を統合するのではなく、学科連携を十分に活かした学びの場をつくることによって、生徒の興味関心を湧かせ、そこから新たな学びを深める
⑥教師が生徒とともに学び、お互いが高め合える学校	→教師もファシリテーターとして、生徒と学び合うことが求められる 学び続ける教師をつくる上でも、生徒像だけでは不足する
⑦探究学習にトコトン取り組める学校	→興味・関心がある事柄を、トコトン追究して学びを深めることができる 魅力的な学習活動ができるのではないか

カ　多様性

①なりたい自分になれる学校	→自己肯定感、自己実現
②選択がある程度自由にできる学校	→学校での独自の科目や生徒それぞれが学びたい内容で、選択を自らができると良い
③入学した生徒が創り上げていく、生徒がやりたいことをやれる学校	
④柔軟な授業形態	
⑤一斉授業と個別授業を柔軟に編成できる学校	→自己課題を追究する大切なこと
⑥多様性に対応	
⑦入学後、変化する興味・関心も対応できる、幅広い選択肢を実現できる学校	
⑧体験を重視	
⑨国際的視野を育てる	→あらゆることでのグローバル化
⑩バーチャル環境	→人対人では限界がある
⑪バーチャルを活用	→学校に行けなくてもバーチャル空間で参加できる
⑫くくり募集（入学後に農・商・家の学びが選択できる）	→まずは、入学して体験する。体験したことをもとに２年次以降の所属学科・所属コースを決める
⑬幅広い・多様な進路を実現できる学校	→農・商・家の学びは多様。身につける力も多様。就職も進学も、生徒の希望がかなえられる学校が必要
⑭黒板に向かっての授業ではなく、教室や、校内、自宅と、何処でもオンラインも含め、いくつかのグループなどに分かれて学べる	

キ　地域

①地域に出向いてのふれあい、年配者との交流、販売などが多い学習内容	
②生徒達が考えた、催し物が多い学校	
③学校単独ですべてのことをやることは難しいため、専門性を持った人材や、社会に貢献した人の講演会の開催など、幅広いニーズを探りながら、地域と連携した活動を行う	→高齢化が進む中、地域のイベントへの参加、積極的に地域に出ての体験学習など、学生たちの将来に向けた貴重な体験の場となるとともに、地域活性化にもつながり、豊かな人間性の醸成にもつながる。
④地域の次代を担う若者を育てる	→旧４通学区の地域性からして、地域固有の行事、伝統文化が薄れてきている
⑤持続可能社会の一員として、地域に根ざした学び	
⑥「学び」をとおして地域に貢献…農と食と産の連携	→「フード(食)」の分野では、今後の長野県の産業振興の中心を「県内農産物の海外セール」（阿部知事）と言われているので、千曲市に開学する、設備に整う大学農学部と連携して、伝統野菜に加えて、米、リンゴ、ワイン等の新品種の開発、品種改良等についても、その基礎を学びたい 「衣」の分野では、これまでのように、市内の衣料メーカーと連携して、デザインの開発や高齢者への衣の分野等で貢献したい
⑦日本をリードする「農」と「食」の学びの聖地	→この地域は川中島白桃、共和のりんご、千曲・松代のあんずと日本一の果樹産地 善光寺平や姨捨の棚田など美しい田園地帯(日本三大夜景) 県農業大学校やＪＡの研修所、清泉女学院大学農学部、食品会社、ワイナリーなど「農」と「食」の教育・研究機関が集積している これらの特徴を最大限生かし、各機関の連携の拠点となり得る学校にしたい

⑧未来を拓く技術・技能や日本一のおもてなしを学べる学校	→この地域は工業団地が集積し工業が盛んな地域(今後更なる発展が見込まれる)→坂城・千曲、篠ノ井・川中島 戸倉・上山田や松代など日本有数の観光資源が存在している デュアルシステムなど地域との連携により、未来を拓く技術・技能や日本一のおもてなしを学べる学校にしたい
⑨卒業生から学ぶ	→高校卒業後、次のステージで高校での学びがどのように活かされたか、後輩たちに発表する機会を積極的に設ける

３ワクワクする学校にするには（こんなことをしてみたいな）

ア 学び・学校生活

①自らの選択のために学べる	→自らの夢の実現に向かっていけるように
②生徒自らが学びをコーディネートできる学校	→この地域は、各種学校が多く様々な分野の産業も集積しているため、これらとの連携による学びを用意し、生徒自身が興味関心や得意分野など、自身の希望に沿って授業が選択できるようにしたい オンライン等を活用し、大学や企業などと連携した授業も用意したい
③一斉授業と個別授業を柔軟に編成できる学校	→自己課題を追究する大切なこと
④学校建学・デザインから現代の学びに即した新しいスタイルを取り入れる	→一斉学習だけの高校教育からの脱却
⑤色んな体験ができる学校	→例えば、農業高校ならではの「収穫祭」、商業科ならではの「〇〇デパート」、家庭科ならではの「〇〇食堂」「ファッションショー」等。できるだけ残して色んな生徒が関われるように
⑥学習の他にも、日常生活で学年をこえた交流	→違う科や学年との交流があれば、もっと楽しい学校生活が送れる
⑦制服はいらない（自分で考えて、その時々にあった服装でよい）	→個性が重視される時代、制服はなくてもよいのではないか
⑧教科以外のことでもたくさん褒められる学校	
⑨部活動の充実	
⑩きれいな校舎・スペースに余裕がある校舎・設備が整った校舎	→狭い教室に 40 人よりゆとりある教室、放課後におしゃべりできるスペース、エアコン入り体育館、新しい学校にふさわしい専門的な設備がほしい
⑪ラーニング・コモンズを有する有用な学びの場	→未知の時代を生き抜くためのコミュニケーション能力を身に付けるために、協働的な学びが大切であり、そのために、ラーニング・コモンズなど、生徒が仲間と話し合いながら複合的に学びを深めることのできる学習の場を取り入れる必要がある

イ 学科間連携

①学科をまたいだ学習	→夢を膨らませてほしい
②学科の垣根を超えた学校の垣根を超えた関り、生徒が自分のことは自分で決められる(自分で責任とることを大切にすることも含め)学校	→学校外での体験、見学、学習がたくさんあってほしい(関わることを大切にしてほしい)
③それぞれの科が１年に１～２回学習した内容を発表し合う	→自分と違うことを学んでいる人の話を聞くことで、今までに知らなかったことを学び、興味の幅が広がる

ウ 他校・大学、企業等との連携・高大接続

①企業との連携により実践的にグローバル観の養成を図る	→今後グローバル社会での活躍が必要となる中、企業と連携する中で、様々な立場で物事を見る力や新たなことに恐れずチャレンジする力を身につけ企画力や実践力の向上を図りたい
②家庭科を学ぶ専門高校生の海外派遣や海外の高校との交流	→衣服や食に関する海外の最先端の施設を訪問し、関係者との交流を通して、その価値観に触れ日本の生活産業の振興に寄与する意識の醸成を図りたい
③大学との連携による専門高校の学びの充実	→英語、情報、専門科目を中心に、探究学習をとおして、思考力、判断力、表現力の向上を大学と連携して図りたい
④専門科目については高大接続科目や高大連携プログラムの新設をし、成果のあった生徒は連携大学への進学を可能とした入学制度	

エ 先端的

①デザイン、ものづくり、ビジネス、ＩＴで統合的で実践的な学びのできる	→受け継いできた伝統と最新技術の融合による新たな価値観を生み出す学び
②最先端の技術等に触れられる学校	→スマート農業、キャリア教育のバージョンＵＰ、アントレプレナーシップ教育の導入

第６回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会グループワークについて

１ テーマ

〇こんな生徒を育てたい（こんな力がついたらいいな）
〇目指す学校像（こんな学校があればいいな）

２ グループワークの概要

（1）目的

〇前回のグループワークでの意見を実現するための具体的な手立て(学びや仕組み、設備等)について提言いただく
〇グループでの意見交換を踏まえ、構成員それぞれの「学びのイメージ」の策定に向けたイメージを共有する
⇒出された意見や「ワークシート」の内容を事務局でまとめ、学びのイメージの「生徒像」「学校像」の原案を次回懇話会で提案する

（2）進め方（時間は目安）

ア 資料・注意事項等の説明（３分）

イ グループでの意見交換（60 分）

①前回のグループワーク内容への感想や疑問点について出し合う（５分）

②上記テーマについての意見交換（２×25 分＝50 分）

・『こんな生徒を育てたい（こんな力がついたらいいな)』
・『目指す学校像（こんな学校があればいいな)』
⇒一つの意見に対して、他のグループメンバーからも意見を出していただき、その内容について深掘していく

③「ワークシート」への追記（５分）（次の全体会終了後に提出）
（事前に記入いただいた内容に対しての追加や新たに考えが浮かんだこと等をご自由にご記入ください）

ウ 全体会（10 分）

①各グループからの発表（２分×５グループ＝10 分）
②まとめ・次回懇話会に向けて（３分）

３ グループ分け：別紙（司会・記録係：事務局）

４ お願い（４つのルール）

〇どのような意見も尊重（他の人の意見を否定しない）
〇自由に発言（突拍子のない意見も可）
〇質より量を重視（良い意見を出さなければと思わない）
〇他の人の意見に便乗も可（他の人の意見を発展させる）

５ 資料：第５回懇話会グループワークまとめ